



令和5年度 SSH 生徒研究発表会 (in 神戸) 出場!



2023年8月9～10日に開催されたSSH生徒研究発表会(会場:神戸国際展示場)に横須賀高校代表として、PrinⅢユビナガコウモリに関する研究をした3年2組本松航さんが参加しました。本松さんはPrinⅠで横須賀市自然・人文博物館に所属し、PrinⅠ・Ⅱ・Ⅲを通して継続的研究を行いました。

【発表要旨】三浦半島に生息するユビナガコウモリの食性をフン分析により調査した結果、季節によって食性が変化することや、飛翔高度の差によりアブラコウモリとの食性に違いが生じている可能性があることなどが明らかになった。また、ユビナガコウモリのフンを利用していると考えられるアリやハエが確認できたことから、調査地の生態系ではコウモリが一部の昆虫によって利用されていることが解明された。

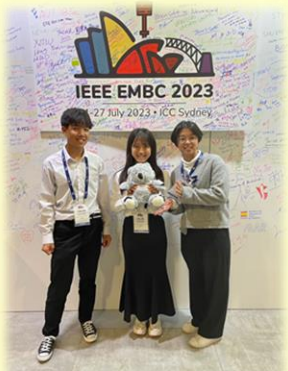
参加者全員が科学に対する非常に強い興味・関心を持っており、質疑応答の際に聞き手が質問だけでなく研究に対する助言や提案をしてくださるなど、多くの人と意見交換や情報共有を行えたことが最大のメリットでした。また、最終日に行われた代表校6校による全体発表はどれもハイレベルで大きな刺激になったと同時に、「各発表会ごとに審査員側の評価基準をよく分析し、自身の発表をそれに対応すべく再構成することが極めて重要である」ということを学ぶことができました。実際そのことを熟知し、巧みな戦略を立てていた高校が文部科学大臣賞を受賞。良い発表というのは絶対的なものではなく、発表の場や評価基準などに応じて変化するのだということを痛感する結果となりました。なお代表校の発表動画は今後WEB上で公開されると思いますので是非ご覧ください。3年2組本松航



オーストラリアで開催のIEEE EMBC 2023に参加!

私達は7月24～27日までシドニーで開催された、IEEE EMBC 2023という世界最大規模の国際会議に参加しました。NTT人間情報研究所の研究者の方との共同研究が審査を通り、現地にて英語によるポスターセッションを行いました。会議には日本人の大学生や院生、教授の方も参加していました。最初は日本人の発表を中心に聞いていましたが、自分たちの研究内容に関連した海外の研究があったので、研究者の方とディスカッションをしました。6月の国内発表では男性の研究者しかいなかったのですが、EMBCには女性の研究者が多くいたことが印象に残りました。自分達の発表の際、海外の方には全て英語での対応だったため、自分達の英語が伝わらないジレンマや伝えたいことが本当に伝わっているのかという不安を感じる時もありましたが、タブレットの図や映像を示しながら伝えることで理解を深めてもらうことができました。

2年2組緒方優海・小林美蘭
2年5組影山拓泉

シンガポールで開催のGLSに参加
Fine Work Prizeを受賞!

私達が参加したグローバルリンクシンガポール(GLS)ではアジア5カ国から沢山の中高生が科学・社会問題をテーマに研究成果を発表し議論を繰り広げました。私達はPrinⅠから継続してきた陸上競技のスタブプロの腕と足への荷重配分に関する研究の成果を発表し、Fine Work Prizeを受賞しました。学会参加を通して様々な国の方々と文化に触れることができ、多くの知識と経験を得ました。学会では発表から質疑応答などすべてが英語で不安でしたが、実際にやってみると緊張せずとても楽しむことができました。他の国の人たちと英語を通じて気さくな話をしたり、写真を撮ったり、国境を越えた友達ができとても嬉しかったです。また、シンガポールの綺麗な景色を見たり、現地の人々のお買い物や会話など貴重な経験をさせていただきました。この経験を今後多くのことに活かしていきたいと思ひます。

2年1組青木陽暉
北村結花
2年3組和田小暖

